

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 コロニー児童デイサービスみやぎ発達

公表日 令和7年3月24日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		休憩時間や送迎時の組み合わせを工夫している。	(突発的な職員欠により) 他事業所からの応援を要請することがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		トイレは死角になるが、常に職員が付くことで安全面確保している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		整理整頓や掃除は、日頃からしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		不穏状態や痙攣等で切り替えが難しい場合は、個別対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		定期的にミーティングしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者からの意見や要望は職員間でしっかり共有している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々児童の支援時の様子など情報共有しながら話している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1		・以前に比べたら研修の機会が増えたが、もう少し増えてほしい。 ・定期的に研修参加している。参加の機会がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		児発管がしっかり対応している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	年間、月間プログラム(活動内容)を皆で考えている。	一人で大まかな月間プログラムを考えたことがあったので、今後は職員がお互いに声をかけあい取り組む。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・5領域が偏らないように計画している。また、年齢や発達の状況に合わせて取り組めるよう工夫している。 ・他事業所からの情報も取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・毎日朝礼と申し送りをしている（利用児童の出欠確認、送迎等の確認、留意事項、連携事項など） ・午後からの勤務スタッフにもしっかり連携する。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		記録しながら確認や情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		最近では保育園やこども園を交えての会議が開催されることが増え、しっかり情報共有し支援に活かしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		日頃から相談員やご家族との連携を行うことで、就学時の移行支援のための会議等で情報共有をしている（管理者、児発管が対応）	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		児童センターと自事業所併用児童が複数在籍の為、その都度助言や連携を図ることができている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	活動や外出先、公園などでは少しだが交流できることがある。	こども園や地域交流実現が課題。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日頃から、主に帰宅時の送迎時に伝えている。コドモンでは活動の様子の写真も掲載している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	ペアトレは実施できていないが、相談やお問い合わせがある際には、しっかり丁寧に対応することを心がけている。		
保護者	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に管理者から保護者へ説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントや面談、日頃からの情報共有をしっかりと丁寧に行うことで子どもやご家族の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		デイお迎え時や送迎時に管理者が直接説明を行い同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		随時、連絡ツールや送迎時を活用し対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		コロナ過が明けたことで、家族会や夏祭りを開催でき、家族参加が実現できた。	

への説明等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		常に保護者からの相談等については、全職員で共有し、管理者がしっかりと丁寧に、かつ迅速に最後まで対応している。必要に応じて面談や見学実施もしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		月に一回「みやぎだより」を発行している。活動の様子の写真掲載や行事予定等も記載。月間プログラムも配布。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		補聴器使用の児童には、本児が知っている手話やサイン、ジェスチャーも取り入れながらコミュニケーションを図っている。	どんだん日常使用の手話やサインが増えることが予測されるので、常に保護者にも確認しながら支援に活かす。日常、頻繁に使う手話や必要な手話を支援者が学び習得する機会が持てるようにしたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	今年度は初めて「てだこウォーク」へ参加し、地域交流ができた。これを機に、地域交流の場への参加を継続していきたい。	法人の感染症対策との兼ね合いもあるが、今後はまずイベント参加から地域交流を図りたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時や服薬が発生した際にしっかり確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に確認し、医師の指示書や保護者からの情報をしっかり全職員で情報共有している。給食提供不可やおやつ提供時には原材料や製造ルート等の確認を複数人で確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		危険認知、回避度の確認。外出時のマンツーマン対応等、行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			現在、該当児童はいないが、必要性が発生した際には保護者へ十分に説明し、了解を得て、計画書にも記載し支援する（身体拘束が必要ないような支援方法がないかを全支援者、組織内でも相談、検討する）